

【取組結果の検証】

| 学力向上に向けた視点 | 取組の成果 | 取組の課題 |
|------------|--|--|
| ①学力基盤 | <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、「学習の7つの約束」を守って学習に取り組めるように繰り返し指導を行うことで、学習規律を意識して学習する児童が増えた。 ・タブレット端末のドリルソフトに取り組む時間を、朝の時間や宿題など計画的に設け、既習漢字の定着、四則演算の練習問題に取り組んだことで、基礎学力向上につなげることができた。 ・算数ステップアップ教室やサマースクールへの参加を促したり、少人数指導担当と連携したりしながら算数の基礎的学力の定着を図ったことで、算数に苦手意識のある児童も、課題に取り組めるようになってきた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・一部、学習規律が身に付いていない児童については、引き続き指導を徹底していくとともに、「学習の7つの約束」の取組について家庭に周知し、家庭と共通した認識をもって指導に当たる。 ・基礎的・基本的な学力が身に付いていない児童に対しては、引き続き、休み時間や放課後を使っての個別指導やタブレット端末のドリルソフトを活用した取組を充実させ支援していくとともに、家庭とも連携をして取り組んでいく。 ・各種調査の結果を分析し、平均を下回っている教科については重点的に既習の内容の復習などを行うことで支援していく。 |
| ②授業改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・「有馬スタイル」を活用し、「学び合い」の場を授業の中に意図的に取り入れることでスムーズに話し合いを進めることができ、児童は様々な考えを基に課題を解決できた。 ・どの教科でも、ねらいを確認して学習の見直しをもたせ、振り返りで自分の考えを書いて学習をまとめることで、授業の中で理解したことや考えたことをまとめる力が身に付いた。 ・コロナ禍でも付箋を使ったグループ間での意見交流やディベートを行うなど、自分の立場や意見を伝える機会を設定することで、学び合いの時間を確保した。 | <ul style="list-style-type: none"> ・「伝え合い」や「話し合い」の充実や行い方に課題がある。単なる「伝え合い」等にならないよう多様な考えや意見が交流できる場を意図的・計画的に取り入れていく。 ・実験等の体験的な学習については、体験だけにならないよう、体験後の考察を自分の言葉で表現したり、体験を基に、さらに自分の考えを深めたりしていくための授業改善を行っていく。 ・有馬スタイルの実践後の検証をより充実させ、指導内容の成果と課題を共有し、各学級の取り組みを有効活用できるようにしていく。 |
| ③教員の指導力 | <ul style="list-style-type: none"> ・有馬スタイルを生かして、授業改善の手だてを話し合い、互いの授業実践を見合ったことで、授業力向上につなげることができた。また、ICT 機器の活用を取り入れた授業展開を意識して考えることができた。 ・学年会で単元計画を話し合ったり指導案を検討したりする時間を確保したことで、授業の進め方などのOJTを行うことができた。 ・ALT と事前に打ち合わせをし、終了後は学年間で共有し、外国語科の授業力の向 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学び合い」、「ICTの活用」の授業展開をどの教科においても実施しながらさらに研究を深め、他教科にも成果を広げていく。 ・各教科で話し合い活動を計画的に取り入れ、相手の話を最後まで聞いたり、自分の考えを相手に伝えるように話したりすることができるように指導を積み重ねる。 ・ALT との打ち合わせをより充実させるとともに、学年間でも学習内容についてよく話し合い、指導内容や方法について共 |

| | | |
|-------------|---|---|
| | 上に向けて取り組んだ。 | 通理解を図る。 |
| ④家庭との 連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童への学習アンケートを基に、学習の取組状況・個別の課題等を把握し、それを保護者会、個人面談などの機会を通して、伝えるとともに、気になる児童の保護者に対して適宜電話連絡や面談等を行うことで、児童についての情報を保護者と共有することができた。 ・定期的に学年便りやホームページを配布・更新したり、保護者会で映像を活用して学校の様子を伝えたり、保護者会の様子をタブレット端末を使って配信したりして、情報発信に努めた。 ・欠席児童には、必ず、電話またはGoogle Classroom を利用し、学校の様子、授業内容、宿題、時間割等の連絡をした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、児童の人間関係や学習の様子について把握に努め、保護者会や個人面談以外でも、児童の気になる変化については家庭に小まめに連絡するとともに、管理職や学年間で情報共有を行い、組織的に対応することで、より効果的な指導の実現を目指す。 ・家庭学習の習慣化に課題がある児童については、児童の様子を連絡して家庭でも協力してもらえようお願いしていく。 ・Google Classroom 等、タブレット端末のさらなる効果的な活用について校内で検討し充実を図っていく。 |
| ⑤体力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の体力調査の結果を分析し、各学年で共通理解することで、授業の中で意図的・計画的に苦手な分野を強化する運動を取り入れた。 ・長期休業中には「運動取り組みカード」に取り組みせ、学期始めにはそれを基に児童の課題を把握し、学習に課題改善に向けた運動を取り入れた。 ・体育の授業中では運動量を確保するとともに、準備運動の中で柔軟運動や握力を高める運動に取り組んだ。また、全身運動を行う時間を確保するために、体づくり運動を授業の前半に取り入れることで、体力向上の一助とした。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も体力調査の結果を基に、適宜、課題に応じた運動を取り入れることで、さらなる体力向上につなげていく。 ・運動の得意、不得意に関わらず、達成感や充実感を味わわせるため、体育指導補助員と連携し、授業展開の工夫を図り、体力向上に向けた取組を継続的に行っていく。 ・体育の授業では、目標を明確にして取り組みせ、児童が成果を感じるような工夫を行う。特に、短縄跳び、長縄跳びについては学校行事とも関連させ、休み時間なども利用して取り組みせていく。 |